北九州市　**めざす授業づくり**

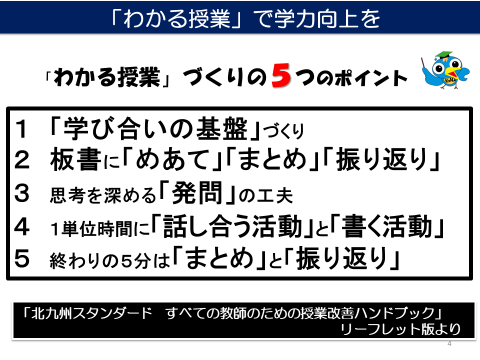
『「わかる授業」づくり』から『「学びの質を高める授業」づくり』へ　　Vol.１

**令和３年３月　北九州市教育委員会**

**北九州市では、これまでアクションプラン第１・２ステージでの『「わかる授業」づくり』を通して学力・体力の向上を図ってきました。その際、授業づくりの一つの指針となっていたのが【「わかる授業」づくりの５つのポイント】です。**

**しかし、「どこまで」「どのように」ポイントを押さえるのかは先生一人一人異なっており、中には形式のみにとらわれている授業も散見されました。そういった反省を踏まえ、「より分かりやすく」「より使いやすい」資料を作ることにしました。それが今回の【「学びの質を高める授業】づくり５つのポイント＜４つのステップ取組例＞】です。**

**この取組例に先生方のアイデアを加え、日々の授業づくりにご活用ください。**

****

**理　念**

**「５つのポイントの実施」を重視**

**【令和２年度まで】**

**ツール**

**【授業構想シート】**

**ねらい**

**めあて**

**話し合う活動**

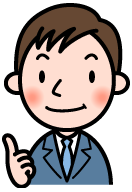
**書く活動**

**まとめ**

**振り返り**

**【継続使用】**

**学びの質に着目して具体化**



**「学びの質を高める授業」づくり５つのポイント**

**１　学び合いの「質を高める」基盤づくり**

**２　めあての設定は「子どもと一緒に」**

**３　「問い」と「気付き」を促す発問**

**４　「考えを深める」話し合う活動と書く活動**

**５　まとめと振り返りは「子ども自らの言葉」で**



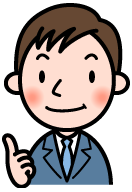
**理　念**

**【令和３年度より】**

**「子どもの学びの充実」**

**を重視**

**ステップに応じてさらに具体化**



**【知恵袋】（参考版・学校版）**

**ポイント１**

**ポイント２**

**ポイント３**

**ポイント４**

**ポイント５**

**ツール２**

**ツール１**

**ツール３**

**【授業構想シート】**

**ねらい**

**めあて**

**話し合う活動**

**書く活動**

**まとめ**

**振り返り**

**【４つのステップ】**

**＜取組例＞**

**ステップ１**

**ステップ２**

**ステップ３**

**ステップ４**

**「学びの質を高める授業」づくり５つのポイント**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **４つのステップは**   1. **子どもに育成すべき能力** 2. **教師が身に付けるべき授業力**   **と見ることができます。** | | **ア** | **イ** | **ウ** | **エ** |
| **ステップ１** | **ステップ２** | **ステップ３** | **ステップ４** |
| １ | 学び合いの「質を高める」基盤づくり | **発言のルールや相手意識を指導し、受容的態度を育てる。** | 常に理由や根拠をもって説明できるように指導する。 | **質問をする習慣が身に付くように指導する。** | 議論を深めるよい質問ができるように指導する。 |
| ２ | めあての設定は  「子どもと一緒に」 | キーワードを示し、子どもが考えためあてを教師が修正して設定する。 | **子どもが見付けたキーワードと考えためあてを教師が修正して設定する。** | **子どもがキーワードを見付け、考えためあてを教師と子どもで修正して設定する。** | **子どもがキーワードを見付け、考えためあてを主として子どもが修正して設定する。** |
| ３ | 「問い」と「気付き」を  促す発問 | 「開いた発問」を行い、「話し合う活動」や「書く活動」の契機にする。 | | | |
| 「発問」を行い、一人一人の考えを確かにさせる。 | 「くらべる発問」を行い、気付いた違いを生かす。 | 「ゆさぶり発問」を行い、理由や根拠を掘り下げる。 | 「くらべる発問」「ゆさぶり発問」等、開いた発問を効果的に組み合わせる。 |
| ４ | 「考えを深める」  話し合う活動と書く活動 | 書く活動で考えをもたせ、話し合う活動で相手と出し合うことができるようにする。 | 書く活動で考えをもたせ、話し合う活動で相手に説明できるようにする。 | 書く活動で考えをもたせ、話し合う活動で相手と質疑応答ができるようにする。 | 書く活動と話し合う活動を効果的に組み合わせ、相手と考えを相互に深め合うことができるようにする。 |
| ５ | まとめと振り返りは  「子ども自らの言葉」で | ・めあてに対応するようにまとめをする。  ・振り返りは「今日分かったこと」を言えるようにする。 | ・めあてに対応するようにまとめをする。  ・振り返りは「今日分かったこと」「次の時間に頑張りたいこと」を言えるようにする。 | ・子どもが板書にあるキーワードを使って考えた複数のまとめを一つにできるようにする。  ・振り返りは、「今日分かったこと」「次の時間にがんばりたいこと」を言えるようにする。 | ・子どもが板書にあるキーワードを使って考え、それぞれ自分の言葉でまとめを書くことができるようにする。  ・振り返りは、「何によってどのように考えが深まったか」「（他教科や生活等への）学びの活用」「次の時間に頑張りたいこと」を言えるようにする。 |

**＜４つのステップ取組例＞**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **４つのステップ取組例を実現させるために考えられる手だての例です。学年や学級の子どもによって有効性を検証し、学校ごとに充実させていくとよいですね。** | | **子どもの学びの質を高める手だて集**  **【参考版】「北九州みんなの知恵袋」** |
| １ | 学び合いの「質を高める」基盤づくり | ⑴多様な考えこそ学びを深める貴重な財産であることを意識させ、どんな発言にも全員が「なるほど」の気持ちで返せるようにする  ⑵「聞く」「話す」「書く」活動は、どの活動をしているのか意識できるよう、絵を使って可視化しながら（１つずつ）行うようにする  ⑶（子どもが学びに向かうことができるよう）黒板の回りなど教室環境を整え、すっきりさせておく  ⑷すべての子どもに「活動と表現ができる場」を設定する（活動内容と表現方法の支援）  ⑸学びの「目的」と「価値」を意識した子どもの活動時間が確保できるよう、教師の説明は短く的確に行う  ⑹「説明ことば」「質問ことば」などを掲示し、いつも使えるようにしておく  ⑺子どものわかりやすい説明や議論を深めるよい質問、それらを行おうとする態度を取り上げて称賛・価値付けする　　　　　など |
| ２ | めあての設定は  「子どもと一緒に」 | ⑴子どもの興味・関心や活動意欲を高めるために、「実物」の提示や「実演」等を行う  ⑵活動やまとめの時間を確保できるよう、前時からのつながりをノートや掲示物等で確認し、めあて設定までの時間を短くする  ⑶単元の学習計画や前時とのつながりから本時のめあてを設定する  ⑷問題意識を明確に持てるよう、前時までの知識や技能では解決できない問題を提示する  ⑸本時の終末までを見通すことができるよう、「解決の見通し」「方法の見通し」「手順の見通し」などを板書に位置付ける  ⑹子どもの問いや課題を「追究すべき問題」に高めることができるよう、生活や課題とつないだ「体験」「予想」「比較」からずれを生む　など |
| ３ | 「問い」と「気付き」を  促す発問 | ⑴具体的な「指示」で行動を、「発問」で思考を促す（発問と指示を区別し、指示で活動の内容と表現の方法を示す）  ⑵考えの理由や根拠を明確にすることができるよう、「問い返し」や「無言の間」で子どもに説明を促す  ⑶違いに目を向けたり根拠や理由をもとに選んだりすることができるよう、子どもの葛藤を生む対立事象の提示を行う  ⑷子どもの思考を促したり揺さぶったりして気付きにつながるよう、教師による例示用サンプルやエラーモデルの提示を行う  ⑸必要に応じて子どもに合ったワークシートやヒントカードを個別に使用するなど、座席支援表による支援計画を立てる  ⑹子どもの気付きを広げることができるよう、子どもの思いや考えを机間指導等で把握し、「意図的指名」で授業に山場をつくる など |
| ４ | 「考えを深める」  話し合う活動と書く活動 | ⑴話し合い方や進め方が分かるよう、「話し方・聞き方」のきまりや「話し合いの型（司会者・発言者・質問等）」を使う  ⑵話し合いが深まるよう、多様な考えをもった子どもたちを意図的にグルーピングする  ⑶「考え」「伝えたいこと」「聞きたいこと」を持つことができるよう、子どもの実態と活動の見取りに応じて次のうちから選択する  　　①個別に支援する　　②板書等から選ばせる　　③話し合わせる　　④自力でさせる  ⑷思考したことを表現できるよう、動作化やロールプレイングを行う  ⑸友達との考えを比較（共有化）できるよう、書く活動において思考内容を焦点化・可視化するシートやカードを活用する  ⑹個々の考えやその違いが明確になるよう、話し合う活動において図やチャート等の思考ツールを活用する  ⑺考えの広がりや深まりを自覚できるよう、話し合いの後にノートやカード類で「考えの再構築」する場を設定する　　　　　　　など |
| ５ | まとめと振り返りは  「子ども自らの言葉」で | ⑴子どもが自らの言葉でまとめることができるよう、書き出しにはめあての言葉を使うようにする（指定する）  ⑵子どもが自らの言葉でまとめることができるよう、板書のキーワードや結びの言葉を使うようにする（指定する）  ⑶子どもが自らの言葉でまとめることができるよう、複数の子どもの発言から選ばせたり統合させたりする  ⑷振り返りは本時の学びが自覚できるよう、「知識・技能の高まり」「学び方」「意欲の向上」の視点で行う（組み合わせて行う）  ⑸振り返りは「学び方」と「思考の広がりや深まり」を自覚できるよう、板書で確認する  ⑹物事の関係や子どもの思考の流れと深まりが可視化できるよう、色使いや配置を工夫し、矢印や囲み枠を位置付けた板書をする　など |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | | **子どもの学びの質を高める手だて集**  **【学校版】「○○小（中）知恵袋」** |
| １ | 学び合いの「質を高める」基盤づくり |  |
| ２ | めあての設定は  「子どもと一緒に」 |  |
| ３ | 「問い」と「気付き」を  促す発問 |  |
| ４ | 「考えを深める」  話し合う活動と書く活動 |  |
| ５ | まとめと振り返りは  「子ども自らの言葉」で |  |

**＜４つのステップ活用例＞**

**Ｂ　学級の年間の指導目標の設定に**

**Ａ　子ども一人一人の能力に応じた指導目標の設定に**

**Ｃ　教員の授業力向上の指標に**

Ｄ　校内ＯＪＴの指導目標・指標の設定に

**昨年度、〇〇先生は「４－イ」の手だてで子どもに力をつけましたね。今年度は「４－ウ」を目標に取り組んでみてはどうですか。**

**次の授業では「２－ウ」と「３－ウ」を取り入れた授業にチャレンジしてみようと思います。**

**国語の次の単元は、「話し合い」と「書く活動」を重点的に指導して力を伸ばそう。**

**Ａさんは「４－イ」を、Ｂさんは「４－ウ」、Ｃさんは「４－イ」を目指して指導しよう。**

**私のクラスの子どもたちは、ステップ１はできているな。**

**１学期にステップ２を、２学期にステップ３を、**

**３学期にステップ４を目指して指導し、子どもの力を伸ばしていこう。**

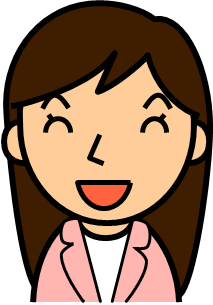
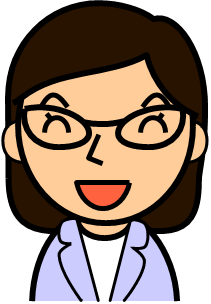
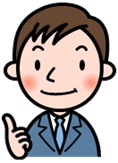
**そうですね。**

**具体的な手だてを「知恵袋」を参考に勉強して取り組みたいと思っています。**

**そうですね。**

**具体的な手だてを「知恵袋」を参考にいっしょに考えましょう。**

**授業が終わったら、有効性を検証してみましょうね。**



【担任】

【担任】

【学校長】

【担任】

【メンティー】　　　　 【メンター】



**～日々の授業づくりで～**

**～自己評価・自己申告（当初申告）の面談で～**

**～メンタリング研修で～**

**～目標設定や指導計画で～**